別紙

稲武地域会議からの意見

「人」視点や「人を支える基盤（まち）」視点で必要と思われる取組について

○ 「（仮称）ミライ実践戦略２０３０」の実現には、次の取組が必要であると考えます。

（１）地域性を考慮した子育て環境の充実

こども達に地域への愛着と誇りを持たせるためには、子育てしやすい環境づくりと郷土愛を育てる教育づくりが必要です。

生まれ育った地域で、将来「働きたい」「住み続けたい」と思える取組を推進していただきたい。

① 子育てしやすい環境づくりの取組

・移住施策を推進していくうえで、子育てしやすい環境は重要な要素となります。共働き世帯の核家族が市内のどこに住んでいても安心して子育てしながら暮らすことができるよう「こどもを預ける場所の確保」について、事業拡充等の対策が必要であると考えます。

② 郷土愛を育てる教育づくりの取組

・山村地域では、こどもの絶対数が少ないため、学習塾など学校以外での学びや、こども同士が交流する機会が都市部と比べると不足しています。ＩＣＴなどのデジタル技術を取り入れた学びや交流ができる環境を充実させるなど、教育の機会を均等に与え、地域格差を軽減しながら、将来、こども達が故郷でも暮らし、住み続けることができるような取組が必要であると考えます。

・また、ＷＲＣや養蚕などのように、地域ごとの資源を活かしながら魅力を高めていく取組が重要であり、市民一人一人がその魅力に誇りを持って次代に受け継ぐことで、郷土愛を醸成していく仕組みづくりも必要であると考えます。

（２）超高齢社会への対応

・今後も高齢化率が上昇していくなか、特に山村地域にとって車は、買い物や通院など生活するうえで必要不可欠な移動手段です。しかし、認知機能の低下があるにも関わらず運転せざるを得ない人もおり、高齢者が利用しやすい移動支援の取組が必要であると考えます。

・また、看護師や介護職員の高齢化が進み、担い手となる人材が不足しており、一部の地域では利用者が希望する十分なサービス提供が困難となっているため、高齢者への福祉サービス等を充実させる施策が必要と考えます。

（３）リニア中央新幹線の開業を見据えた広域連携

・県境を跨いだ公共バスの乗り入れは、県内でも特徴的な公共交通として整備されていると思います。この公共交通を活かして特別企画の周遊券を近隣自治体と連携して取り入れるなど付加価値のある公共バスの利用促進や、今後、リニア中央新幹線利用者が本市へ訪れてくれる際における環境負荷の軽減、交通渋滞の緩和につなげるために、更なるパークアンドライドの推進を期待します。